

「私の心に響いた一言」

安心、勇気、力を与えてくれた心に響く嬉しかった一言。



「私の心に響いた一言」とは...

がんと共に生きる患者さんやそのご家族、
また、がん医療に関わる方たちが、
誰かに言われて「心に響いた一言」
～安心、勇気、力をくれた一言～です。

ごあいさつ

言葉には大きな力があります。
言葉は人を傷つけることもあります、
人を支える大きな力にもなり得ます。

あなたが大切にしたい言葉はありますか？
あなたはどんな気持ちになりましたか？

ページをひらいて、
一緒に言葉の世界へとびこみませんか。

桜井 なおみ

特定非営利活動法人HOPEプロジェクト 理事

広い海をみに行きませんか

健康が取り柄の私が術後

涙もろく怒りっぽく凹んでいたとき

友達からとてもとても安心したメールを頂き

気持ちがすーっとしたと同時に

素敵な友の存在に気づかされました

あれから6年大事にお付き合いしています

女性（57才）

ありがとうはいらない言うな！
俺達は仲間だろ



骨髄腫で入院

中学時代のサッカー部の仲間

何かにつけて来てくれる

ありがとうと言ったら

俺達は35年の仲間だ今更ありがとうはいらない

さりげなく押し付けもなく

これが友情と判った

男性（47才）

僕に出来ることなら何でもします。

乳癌が判明し、紹介された総合病院で
主治医の初診時に言われた言葉です。
がんについて何も知識がなかった私にとって、
それは非常に力強く暖かな言葉でした。
患者の辛さや心の痛みに寄り添おうと
心を砕く主治医の真摯な姿勢に、
がんに向き合う勇気を与えられました。

女性（53才）

出来ない時はできない。
できるよらになったら考える。
それまでは休養。



胃癌(ステージ4)で胃、胆嚢、脾臓の全摘出手術を受けた
5日後に受診したメンタルヘルスケアでの先生のアドバイスです。
いつまで生きられるか、仕事に戻れるのか、等の不安や心配。
でも、今はあれこれ考えても何も出来ない。
だから考えない。
あまり先の事を心配してもどうなるか分からない。
だから心配しない。
「その日暮し」が良いとのこと。
この一言で、気持ちはずいぶん楽になり、
今でも「一日一日を大切に」生きています。

男性(64才)

いつも支えてくれてありがとう。
無理しないで精一杯生きてね。

ガンと闘っている
旦那に贈る言葉です。

女性(40才)

だけなん？
俺だっていつがんになるか
わからんやろ？



がんになりいろんな問題で離婚をした私。
もう二度と結婚はしない(出来ない)と
想っていた私に出逢った
今の主人が「私、がんなんだ」って
言った時の彼の一言です。
この人しかいないって想いました。
女性(44才)

一週間休みをもらってきたからね。

胃ガンで胃全摘手術を受けた時のことです。
遠く離れて働いている娘が付添ってくれて、
どんなに心強く頑張れたことでしょう。
遺書を残しての入院でした。早期離床。
管だらけの身体を支えて、
トイレにも一緒に入ってくれて感激しました。
あれから18年。
今も生命あることの幸せを思っています。

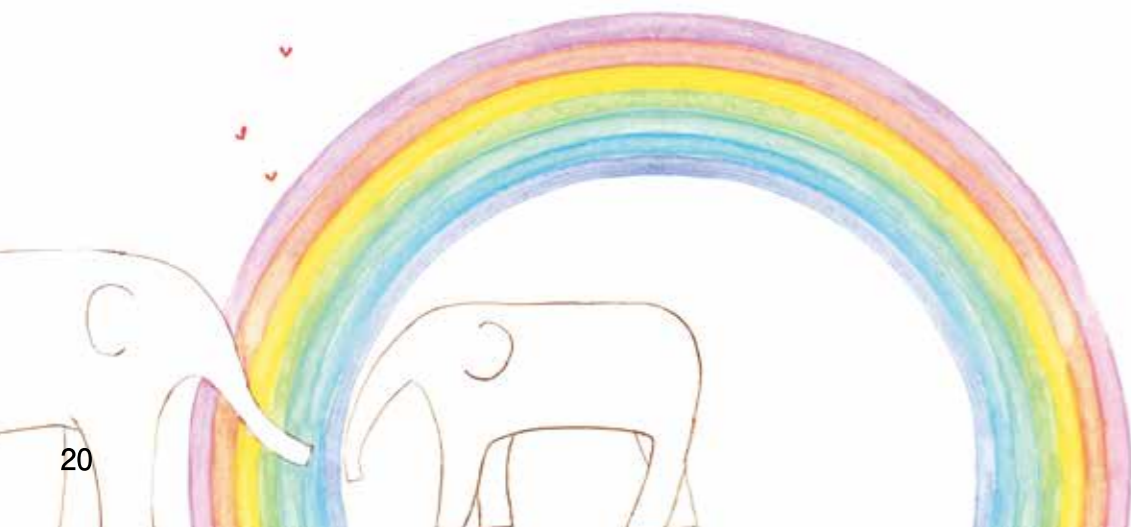
女性（76才）



おかあがくると、
身体の調子が良くなるよ。

息子は進行がん(肺がん)でしたが、
いつも笑顔で弱音をはかず、宮崎での初回治療をのりきり
念願の東京へ凱旋しました。
しかし数ヶ月もたたず、再び東京での治療となりました。
たまに様子を見に行く私を気遣い、
母の日の花のプレゼントに、そんな言葉が添えてありました。
とても優しく、強い子でした。身体はつらかったに違いありません。
心配かけまいと私に笑顔を見せながら、
自分をも奮い立たせていたのでしょう。

女性(58才)



何もしてあげられなくてごめん。
こちらは大丈夫だから子供みてあげて。

父が抗がん剤治療で入院中に、
私の子供がインフルエンザになって、
『暫く、病院に行けないよ』とメールしたら、
父から来た返信メール。
自分の体がキツくても
子供への心配をしてくれてる父に感謝。

女性（38才）

明けない夜はないのよ

主人ががんと宣告され、
誰にも相談できずひとり苦しんでいた時でした。
偶然、訪ねてきた友人にも私の
憔悴しきった様子が伝わったのでしょう。
そんな私にかけてくれた一言でした。
この苦しみは永遠に続くものではないと気づき、
主人の回復だけを信じ医食同源に取り組みました。
あれから21年、今また、
新たながんを克服しようとしている主人に、
今度は私から贈ります。「明けない夜はないのよ」

女性（71才）

今は泣きたいだけ泣けばいいよ。

咳痰は鼻炎だと思い込んでいた
元気印の主人が食欲が無いと言い出し、
病院で検査の結果「肺がん3B期」と判明。
吐血した場合は命の危険もあるとの診断。
即検査続きで入院治療に入り、
娘、息子は遠方で家庭持ち。
毎日病院に見舞って家に帰り、一人っていると
涙にくれている毎日でした。
子供たちの悲しみショックも一緒に泣き暮したあの頃です。
その後、脳に転移し、全脳照射、
抗がん剤点滴で闘病中です。

女性（69才）

私もあきらめない！
ずっと一緒だよ！



がんばらなくていい、
あきらめないで、のフレーズが心に響きました。
一緒にいることの心強さも大切です。

男性（43才）

がんを語りあう広場とは？

「がんを語りあう広場」は、ノバルティス ファーマ株式会社が、がん領域における革新的な医薬品の提供にとどまらず社会的責任を果たす良き企業市民でありたいとの願いから始めた価値創造型の社会貢献活動です。この取り組みは、「がんにかかわる社会の課題」を踏まえて、がんにかかわる誰もが「自分らしく生きる」社会を実現させるために、様々な立場でがんに取り組んでいる人たちが話し合う機会をつくることを目的としたもので、2012年から2014年12月までの3年間実施されました。

「がんを語りあう広場」では、3年間の活動期間を通じ、趣旨に賛同した、医療従事者、患者支援者など様々な分野でがんに取り組んでいるメンバーからなる運営委員会*とともに、「誰もが自分らしく生きることのできる社会の実現」というミッションに基づき、3つの活動目標、1) がんに関する対話の促進、2) がんに関する社会的課題への取り組み、3) がんに関する適切な情報の発信に沿った様々なアクションを行いました。

がんを語りあう広場運営委員会は、ノバルティス ファーマ株式会社が「がんを語りあう広場」の活動を実現する上で、がんを取り巻く社会的課題の解決に向けて、共に考え実行する主体的な第三者委員会です。

*梅田恵氏(緩和ケアパートナーズ)、桜井なおみ氏(特定非営利活動法人HOPEプロジェクト)、中村清吾氏(昭和大学医学部 乳腺外科)、樋口明子氏(公益財団法人がんの子供を守る会)、保坂隆氏(聖路加国際病院 精神腫瘍科)、三好綾氏(特定非営利活動法人がんサポートかごしま) <2014年当時、50音順>

ノバルティス ファーマ株式会社



ONC00059GG0002

2018年9月作成